



「神学校が4年制に！」

校長 吉田 隆

2017年の春から神戸改革派神学校は、また新しい時代に入ります。これまでの4月入学・6月卒業という修業期間（3年3か月）から、一般の大学と同じように、4月入学・3月卒業の4年制になります。実質的には9か月間延長されるだけですが、いくつものメリットがあります。

(1) 実践的訓練の機会の増加

神学生たちにとって最も重要な実践的訓練の場は、説教演習と夏期伝道、通年の教会派遣です。教室で学んできたことを現場で確かめ、説教をし伝道することの喜びと難しさを経験させられる、かけがえのない機会です。現在、2回ずつしか行えない説教演習と夏期伝道がもう一回ずつ増え、教会派遣もこれまでの3年間から4年間になります。

(2) ゆとりある授業

現場に出て働くために学ばなくてはならないことは、山のようにあります。が、神学の場合、本当に肝心なことは知識の量ではありません。御言葉に対するどれだけ深い理解と確信を、その人の信仰体験として獲得することができるかにかかっていると言えます。ですから、4年制にしてもできるだけ授業数は増やさずに、むしろ学んだことを先生や仲間と深める時間を確保したい。特に、卒業前最後の学期は、現場着任の準備教育と卒論に集中させたいと願っています。

(3) 伝道者としての「人間教育」の必要

たった9か月延びるだけで、どんな人間教育ができるかと思われるかもしれませんが、しかし、コンクリート

の塊のような神学校の寮の中で、共同生活を4年間も送ることは並大抵のことではありません。これはこれで大変な修練だと思います。「鉄は鉄をもって研磨する。人はその友によって研磨される」（箴言27:17）。

(4) 短期課程（2年）の併設

以上のような本科と共に、2年間の短期課程（全寮制）を併設することにしました。とりわけ、信徒説教者としての奉仕を考えている方、第二の人生を主のために用いたいと願っておられる方などを対象に、伝道者として奉仕するための最低限の知識（聖書概論・釈義・カテキズム・改革派神学入門・教会政治・説教等）と基礎的訓練を教授するコースです。このような訓練は、信徒説教者のみならず、教会役員やキリスト教諸団体・諸施設などで奉仕する方々にとっても有益な訓練です。また、この短期課程で学んでいる内に牧師としての召命を与えられた人は、本科への切り替えも可能です。

※

困難な牧会・伝道の現場に耐えうる、より成熟した伝道者を送り出したい。それが神学校の願いです。が、このような改革をいくら進めても、中身をいくら充実させても、献身者がいなければ話になりません。

来年は“宗教改革500年”。キリストの福音に突き動かされた魂が、自分自身を神へと捧げた時、新しい歴史は始まるのです。「わたしがここにおります。わたしを遣わしてください！」（イザヤ6:8）。



2016年7月～8月

夏 期伝道報告



本科生 3年生

大宮季三

(おおみやすえぞう)

西部中会 大阪教会



今年の夏期伝道で、7月は新潟伝道所、8月は横浜教会に遣わされました。

礼拝と祈禱会の奉仕の他に、CS での奉仕、主日の午後からの学び会や、土曜日の学び会、朝禱会、キャンプでの奉仕など、夏期伝道ならではの奉仕が多く与えられました。その中でも特に、求道者の方との学び会は私にとって大きな経験となりました。福音をどのように一から伝え、また、教理をどのように伝えればよいのか、改めて神学の重要性を感じ、神学の学びの意義を考えさせられる時となりました。

私に与えられた二つの夏期伝道先は、自分が育った母教会、また神学生として派遣されてきた教会とまったく違う要素がありました。どちらの教会に着いた時もそのことをすぐに感じ、「ああ、神様が本

当に必要な経験を与えてくださっているのだなあ」と強く感じました。昨年と同様、多くの方々との出会いと交わりが与えられたことに感謝をいたします。神様がそれらを通して私の夏期伝道を励まし、導いてくださいました。ここに皆様のお名前を記すことはできませんが、お一人お一人との出会いと交わりは、私に与えられた大きな大きな恵みです。普段の神学校での日々以上に、自分の罪と無力さを感じさせられた二ヶ月間でありました。「自分の力、自分の言葉では、人を救うことはできない」、「自分の一つ一つの奉仕を、神様に本当に心から委ねるとはどういうことなのか」と強く感じさせられながら歩んだ日々でありました。

今年も、私たち神学生の夏期伝道のために多くの祈りを捧げてくださり感謝をいたします。そして、新潟伝道所、横浜教会の皆様、皆様の群れの中に私を加えてくださり、「暑い暑い」夏を共に過ごせたことを心から神様に感謝しております。夏期伝道で与えられた一つ一つの経験は、神様が与えてくださったものであると固く信じます。実践の場にリアリティを持って、夏期伝道の恵みの上に、残された神学校生活を積み上げて行きたいと願っております。



夏期伝道派遣教会

- | | |
|----------------------------|---------------------------|
| ● 大宮季三 : 新潟伝道所 / 横浜教会 | ● 三川共基 : 松戸小金原教会 / 中津川伝道所 |
| ● 高内信嗣 : 那加教会 / 松戸小金原教会 | ● 尹エステル : 那加教会 |
| ● 小橋口貴人 : 花見川キリスト伝道所 | ● 三輪誠 : 芸陽教会 / 銚子栄光教会 |
| ● 佐野直史 : 横浜教会 / 花見川キリスト伝道所 | ● 金エノク : 高松東教会 |
| ● 韓相眞 : 和田山伝道所 / 大屋伝道所 | ● 金慧眞 : 芸陽教会 |

本科生 3年生

高内信嗣

(こうちしんじ)

中部中会 津島教会



今年も夏期伝道を通して主から多くの経験と恵みを与えられました。私を支えて下さった主の憐れみに心から感謝いたします。

7月は岐阜県の那加教会に遣わされました。那加教会での奉仕は主に、朝拝、午拝の説教と水曜祈禱会と家庭集会の奨励でした。那加教会では数多くの集会在平日にあり、1ヶ月で多くの交わりの時間が与えられました。平日も信徒の方々に関わりながら御言葉の準備ができたことにより、教会員のことを思い巡らし、祈りに覚えながら、説教を作ることの重要性に気付かされました。

8月は千葉県松戸小金原教会に遣わされました。松戸小金原教会での奉仕内容は、朝拝の説教、日曜学校のメッセージ、水曜祈禱会の奨励でした。代理牧師の横田隆先生は、私のために特別な時間を取り分けてくださり、御一緒に勉強会をすることができました。神学校では学べない実践的な牧師の働きを学ぶことができ、今後、牧師として歩む私にとって、大きな糧となりました。

この2ヶ月間は、短い期間でしたが、これから牧会者として仕えていくための貴重な経験と恵みを与えられました。一つ目は、御言葉を語り、教会の方々に仕えるために召されたと、再確認することができたことです。召命感がなければ夏期伝道の一つ

つの奉仕を全うすることができませんでした。

「召し」を改めて強く自覚させてくださった神様の導きに深く感謝しております。二つ目は、神学校で学んできたことが大いに用いられたことです。同時に、まだまだ学ばなければならない課題も多くあることにも気付かされました。今後の働きに向け、足りない点を祈りつつ、補う学びをしていきたいと思えます。そして、主に喜んで仕えていくものとして整えられるように祈りつつ励んで参りたいと思えます。

夏期伝道の機会を与えて下さった那加教会と松戸小金原教会の皆様をはじめ、この期間を祈りに覚えて下さった諸教会の皆様にも心からの感謝を申し上げます。



本科生 3年生

小橋口 貴人

(こはしぐちたかと)

西部中会 園田教会



夏期伝道の機会を与えてくださった神学校の教職員の方々、受け入れてくださった花見川キリスト伝道所のみなさま、お祈りに覚えてくださったみなさまに心から感謝します。

私と妻は7月の1ヶ月間、東関東中会の花見川キリスト伝道所に遣わされました。千葉県の花見川区にあり、大きな団地の入り口に建っている伝道所です。あっという間の1ヶ月間でしたが、花見川キリスト伝道所のみなさまと共に礼拝を捧げ、祈りを合わせることができて感謝でした。主の日の礼拝の出席者は15名ほどですが、水曜の祈禱会(聖書を読む会)には求道者の方も含め10名ほどの方が集われます。人数は決して多くはありませんが、みなさまが熱心に信仰生活を歩んでおられる姿に励まされました。朝拝ではルカ福音書、祈禱



会では十戒をともに読み進めました。花見川の祈禱会には船橋高根教会から引退長老の方が加わっておられます。無牧になった伝道所を励ますために、またともに祈るために毎週来られています。中会が一つの教会であるという長老主義の良い一面を学ぶことができました。花見川キリスト伝道所に、ふさわしい牧者が与えられることを祈っています。

夏期伝道の期間、東関東中会の講壇交換があり、私は三郷教会でも奉仕させていただきました。初めて訪れる教会で、多くの出会いに恵まれました。特に三郷教会では、礼拝後に青年会のみなさまとの昼食と交わりに参加することができ、とても有意義な時を過ごすことができました。

さらに船橋高根教会でも奉仕をさせていただきました。夕拝の奨励と、教会学校の夏期キャンプです。どちらも足りない奉仕でしたが、温かく受け入れてくださり、楽しい時を過ごすことができました。夏期伝道中、花見川キリスト伝道所の代理牧師である小峯先生から、説教や牧会について多くのことを学ぶことができ、貴重な夏期伝道となりました。お世話になったみなさまと、またお会いできる機会があればと、楽しみにしています。



本科生 3年生

佐野直史

(さのなおし)

東部中会 東京恩寵教会



主の御名を賛美いたします。私は、7月は東部中会の横浜教会に、8月は東関東中会の花見川キリスト伝道所に派遣されました。

横浜教会は、横浜市磯子区に位置し、無牧の状態にありながらも伝道にとっても熱意のある教会でした。数多くの集会有り、御言葉と祈りの時間、交わりの時間を大切にしていることが伺えました。

ご高齢の女性の会である「アンナの会」では、戦中から戦後にかけての皆様の信仰生活についてお話を聞くことができ、私自身大変大きな恵みを受けました。私の御言葉の奉仕は、欠けの多いものでありましたが、教会の皆様が忍耐を持って聞いてくださり、数々の感想を言ってくださったことを感謝しております。横浜教会での奉仕を通して、御言葉を取り次ぐ難しさ喜び、そして聖徒の交わりの素晴らしさをまた新たに学ぶことができました。



花見川キリスト伝道所は、千葉市花見川区に位置する教会で、今年の5月から無牧の状態にあります。しかしそのような中であっても、皆様は礼拝に集い、希望を持って祈っておられ、その姿を見ることで私は多くのことを学ばされました。水曜日の祈禱会は、求道中の方を含む毎週10名程度の出

席者があり、共に御言葉に聞いて祈り合う、恵み多き時でした。花見川キリスト伝道所を通して、無牧の教会の労苦と、困難な状況にあっても、主にあって一つとなり、神様に礼拝をささげる素晴らしさを学びました。

夏期伝道では、特に、夫婦二人で実習期間を過ごせたことを主に感謝しております。様々な牧会の形はありますが、夫婦で働きをすることの心強さと喜びを感じることができました。私たちの神学校生活も残り一年となりました。様々な面で弱さを抱えている者ですが、益々主に委ねて、福音宣教のための準備をして参りたいと思います。このような機会を与えてくださった横浜教会と花見川キリスト伝道所の皆様をはじめ、神学校の歩みを支えてくださっている全国諸教会の皆様に関心感謝申し上げます。



本科生 3年生

韓 相眞
(ハンサンジン)

西部中会 鈴蘭台教会



私は夏の2ヶ月間、二つの教会に夏期伝道の奉仕をさせていただきました。7月は和田山伝道所で、8月は大屋伝道所でした。二つの教会とも同じく兵庫県内にあり、禰津省一先生が兼牧という形で牧会されていました。そのため、先生と私が1ヶ月ずつ交代で、奉仕をすることになりました。

夏期伝道に臨みながら、二つのことを念頭にお

きました。一つは、奉仕において教会に迷惑を掛けないように最善を尽くすことでした。日本語を含め、未熟な自分の奉仕のために教会が損なわれないように心に掛けました。もう一つは、学ぶことです。私の身分が神学生であるから、卒業後の現場の牧会のために学ぶ機会にするということでした。

今回の夏期伝道には、無牧教会とは違って先生がいらっしゃるだったので、先生の牧会の姿を通して、とても良い学びの機会になりました。良い牧会者としての模範を学ぶことができました。また、教会員の方々とも豊かな交わりを持つことができました。真実な交わりを通して、暖かく受け入れていただき、感謝でした。

主な奉仕は説教でした。日本語で説教をすることに少し不安もありましたが、主の恵みの中で無事に守られて、何よりも感謝でした。

神学校のチャペルで行った夏期伝道報告の時、私は和田山と大屋伝道所が「ヘブロン」のような教会ではないかと思いました。アブラハムとイサクとヤコブが葬られているマクペラ洞穴があるヘブロンは、イスラエルの民にとって、信仰の聖地であり、源のようなところです。これからの大屋と和田山伝道所の歩みが主によって霊的なヘブロンとして大



いに用いられることを祈りたいと思います。今回の夏期伝道を通して、私は改めて自分の足りなさを覚えました。残りの神学校の学びと研鑽を通して主の良き働き人として成長するように励んでいきたいと思ひます。最後に、祈りと忍耐を持って支えてくださった大屋と和田山伝道所の皆様に感謝をいたします。



本科生 3年生

三川共基
(みかわともき)

東関東中会 稲毛海岸教会



今年の夏は7月に松戸小金原教会、8月に中津川伝道所へ派遣されました。主が夏期伝道へ遣わしてくださったことに、また皆さんが祈りにおぼえてくださったことに深く感謝いたします。今回の夏期伝道では「イエス・キリストと出会う」ということを自分の中でひとつの大きなテーマとして掲げていました。私自身が御言葉を通して、イエス様との親密な関係を築くこと、また説教や祈祷会、様々なところで、遣わされる先の教会の人たちがイエス様と出会える夏であってほしい、という願いで奉仕をしました。

教会での具体的な奉仕は、主日礼拝での説教、祈祷会での奉仕、教会での各行事への参加です。それに加えて、大中会の修養会やキャンプにも参加しました。昨年も夏期伝道は経験していましたが、やはりこの2ヶ月間は特別であると感じまし

た。神学校で日々学びの時を過ごしておりますが、神学校ではなかなか学べない事を夏期伝道では学ことができました。



松戸小金原教会は、千葉の住宅地にある教会です。会員の中にはそれぞれ豊かな賜物を持っている方が多くおられ、それを教会のために役立っている姿を見ることができました。日曜学校や地域への伝道に対して、本当に熱心な様子を伺うことができました。

中津川伝道所は、東濃の中山道近くに位置し、120年余の歴史ある教会です。教会もその歴史が深いゆえに伝統を重んじるころでした。会員の方が皆、教会の歴史・伝統を一生懸命に守る姿に、強い信仰を見ることができ、私自身非常に励まされました。

私はこの2ヶ月間、多くの人に出会い、学び、これからの自分の働きについて深く思いを巡らす時をもちました。特にその中で伝道と教育について思いを寄せました。いずれも教会の現場で大切なことですが、神学校で学べる間、将来の働きのために、特にこれらすることに習熟したいと思っています。どうぞこれからも豊かな学びができるようお祈りください。



別科生 3年生

尹(ユン)エステル

西部中会 園田教会



私は8月の1か月の間、中部中会の岐阜にある那加教会へ派遣されました。

那加教会は朝拝に約40名ほど集まる活気のある教会です。岐阜の各務原市という都市部に建てられており、8月は伝道月間として毎年、伝道説教を行っています。私も8月の奉仕にあたり、新来者向けの奨励を準備いたしました。

那加教会は引退されました中根先生の後、2年ほど無牧にある教会です。しかし、無牧ではあっても、受洗者が与えられつつづけている、優れたコイノニアの教会でした。

私はほんの1か月の間だけの奉仕でしたが、そこで教会生活を送っている兄弟姉妹の姿を通して、教会において大切なことをたくさん教えていただきました。

那加教会はひとつのモデルのような健やかな教会、といった印象がありました。それはひとえに、主の恵みの内に、聖霊によって養われる良い流れのようなものがあって、良い循環が交わりの中に流れている教会だからだと思います。堅実な信仰だけでなく、新しい伝道へのチャレンジにも果敢に取り組んでいく生き生きとした良い循環。そのようにして生まれた健やかさ、心地良さのようなものが、未信者の友人や家族に良い影響を与え、求道者が与

えられ続ける理由なのではないかと思いました。

人に仕え、捧げることを通して、かえって自分が豊かにされる。福音の真実を実践することに、一人一人が真摯に取り組むところに、健やかな教会があるということはこの夏は那加教会から教えていただきました。

私自身は未熟な奉仕者でしたが、多くの励ましと慰め、主にある愛の交わりをいただき、有意義な夏期伝道を経験できたことを主に感謝しております。

那加教会にふさわしい牧者が与えられ、地域の方々の救いのために用いられる教会としてさらに発展されますよう、祈りに覚えていきたいと思えます。



本科生 2年生

三輪誠

(みわまこと)

東部中会 東京恩寵教会



7月には四国中会の芸陽教会、8月には東関東中会の銚子栄光教会にて奉仕をいたしました。夏期伝道において受けた多くの恵みを、まずは主に感謝いたします。私にとって、同じ信徒の方々に毎週連続して御言葉を語るというのは初めての経験でした。この経験を通して強く感じたことは、御言葉を聞いてくださる方々がいてこそ、説教は成り立っていくのだということです。夏期伝道では、初対面の方々に御言葉を語るのではなく、遣わされた教会の兄弟姉妹と交わりを持ちながら御言葉を語ることにになります。御言葉を聞く兄弟姉妹の生活や痛みや困難が見えてきますと、たとえ語る聖書の御言葉は変わらなくとも伝え方や語り方はおのずと変わります。御言葉を語る上では、御言葉に期待して集まった兄弟姉妹に、神がどのようにお語りになるのかを考え抜くことが大切であるということをおぼされました。

主日の奉仕以外で印象に残ったのは、未信者の子供たちとの出会いです。7月には高知教会にて、近所の子供たちを対象にスペシャルサマーウィークと題してお楽しみ会が行われました。私もそのお手伝いをいたしました。参加した子供たちのなかには未信者の家庭の子供たちもおりまし

た。しかし集まった子供たちみんなが楽しみながら聖書のお話を聞き、共にお祈りしている姿が大変印象的でした。8月には銚子栄光教会に併設されている萌保育園の園児たちとの交わりが与えられました。萌保育園の子供たちは、朝の会で聖書のお話を聞きます。このお話を私は数回担当しました。お話は一回約十五分ですが、子供たちが最後まで真剣に聞いていて驚かされました。子供たちのほとんどが未信者の家庭です。そのような子供たちが、それぞれに神様を身近な存在として受け入れていました。このように教会や保育園を通して神様と出会った子供たちが、神様の愛を受け続けるために、御言葉を語り続けることの大切さを強く思わされました。



別科生 2年生

金(キム) エノク

日本福音宣教会(JEM)宣教師



こんにちは。神戸改革派神学校2年生の金エノクと申します。今年の夏、四国中会の高松東教会にて7月の1カ月間、遣わされました。とても感謝しております。私は夏期伝道で多くの恵みをいただきました。

その一つ目の恵みは、教会に住みながら、礼拝や集会に集う信徒の方々を待つ心を知った恵みです。主日に会える信徒の方々を待ちながら、礼拝

で会堂が人でいっぱいになることや、信徒の方々の信仰生活のために祈ることができました。



二つ目の恵みは、説教を準備することの恐れと恵みです。7月の1カ月、主日は5回ありましたが、1週間の間に説教を作っていく恐れがありました。しかし、それに勝る大きな恵みを味わいました。

そして、三つ目の恵みは、喜びあふれる交わりです。12～14人くらい集まる高松東教会の交わりはいつも家族のようなものでした。毎週の主日の昼食は、うどんツアーでした。色々な場所で美味いうどんを食べながら、皆さんとの交わりはとても幸せなものでした。

そして、最後の四つ目の恵みは、魂との出会いです。私は高松東教会で家庭訪問の機会があれば、行きたいと願っていました。しかし、家庭訪問の機会はなかなか与えられませんでした。ある時にたまたま寄った所で、健康の故に長く教会へ

来ていなかった方と出会うことになりました。2時間ぐらい教会の信徒たちと深い話、深い交わりができました。そして、その方は次の週から教会へ来られるようになりました。今でも熱心に教会の生活をしておられていることをお聞きしました。その方を愛しておられる神様がすべて導いてくださったのだと思います。本当に感謝でした。高松東教会での夏期伝道は忘れられない体験です。愛する高松東教会の皆さんのためにこれからも心を尽くして祈っていきます。本当にありがとうございました。



8月の1ヶ月間、四国の安芸市にある芸陽教会で夏期伝道の奉仕をさせていただきました。初めての夏期伝道は、外国人として全うすることができるかという恐れもありましたけれども、とても貴重な学びの時間になりまして心から感謝しております。生活は教会の牧師館を利用させていただき、独り暮らしであるにもかかわらず神様によって守られました。学校の寮から離れ個人的な空間ができた恵まれた一時でした。奉仕としては、午前礼拝と夕拝の奨励と木曜日の聖書研究祈禱会での奨励をさせていただきました。主日の午後礼拝の中では、山田教会と久礼伝道所でも奨励をさせていただきました。心から感謝いたします。

別科生 2年生

金 慧眞
(キム ヘジン)



毎週、説教を作るというのはとても大変なことであり、どれほど苦勞があるかがよく分かる時間でもありました。その大変さというのは、まず神様の御言葉を正しく伝えなければならないことであり、また聖徒様を覚えていらっしゃる神様の御心を考えなければならなかったことです。しかし、そのような緊張

感があつたゆえに、もっとも聖書に取り組むことができ、祈ることができました。個人的な御言葉の黙想としては福音書を読み、イエス様の服従を再び考えさせられる時間でした。

四国のサマーバイブルキャンプにも参加をさせていただきました。御言葉を素直に受け入れてくれる子供たちの純粋さと、先生とスタッフの愛がこもっている働きに感動を覚えました。奉仕としては二日目のお話とキャンプファイヤーで証をさせていただきました。

芸陽教会での聖徒様との交わりも忘れられない貴重な時間になり、心から感謝しております。夏期

伝道を通して恵まれ、慰められたことは‘私にはできない’と思ったことを可能にさせていただいた神様のめぐみでした。このような機会を許してくださった神様や神学校、改革派諸教会に感謝を捧げます。



編入生挨拶



本科生 2年生

長谷部真

(はせべまこと)

東北中会 仙台教会

主の御名を賛美します。長谷部真と申します。今年5月に米国ピッツバーグの改革長老派神学校での3年間の学びを終え、神戸改革派神学校の門を叩き、9月より二年次編入という形でお世話になっています。これまで三度、牧師としての召しを考える機会がありましたが、このように道を開いてくださった神様に心から感謝いたします。

私はキリスト者の家庭に育ち、幼少時から教会生活を送ってきました。ある主日礼拝を通じ、変わらぬ主なる神様の愛、主イエス・キリストを通しての私の罪の赦しを教えられ、信仰を頂きました。また中高生の学び会で、ある宣教師の話聞き、主の道具として人生を捧げた彼らの働きに強い感銘を受けました。その後、与えられ

た大学生活と日曜学校の奉仕の機会を通じて、霊的な成長と牧会への強い思いを得ながらも、本当に神様が召してくださっているのか、自分の思いだけなのか、強い確信を持たずにいました。そんな悶々とした中で震災を経験しました。未曾有の困難の中で、神様は教会と宣教師の方々を愛の働き手として送ってくださいました。絶えず祈り、励ましてくださった米国の教会の方々の姿を目にし、彼らの信仰から学びたいと思いました。米国での学びを祈り求め、語学留学とピッツバーグでの3年間の学びを頂きました。自分の意気込みとは裏腹に、自信を失うことの連続だったこの留学期間中、御心でないならばこの道を閉ざしてくださるよう祈ることもありましたが、神様はこの学びを、御前に謙る訓練として成し遂げさせてくださったと実感しています。

神様はこれまで、この召しを育て、道を閉ざさず、多くの方々の支えを通して、導いてくださいました。時間はかかりましたが、開いてくださった道に、頂いた賜物を捧げる覚悟に至りました。多くの兄弟姉妹を通して頂いた賜物と経験を、福音宣教に、隣人に、教会に、そして主なる神様に仕えるために訓練に励みたいと思っています。欠けの多い者ではありますが、よろしく御願いたします。

2016年神学校行事（抜粋）



9月8日（木）
長谷部真兄編入式



9月14日（木）
「ハイデルベルク信仰問答における
キリストとの 結合の教理」
松田真二先生



9月6日（火）
第1学期開講講演会（木下裕也先生）



9月8日（木）～9日（金）
「牧会者の自己点検」 藤掛明先生



11月18日（金）
第19回神戸改革派・
神戸ルーテル神学校合同神学シンポジウム

新刊案内



改革派教義学5巻 『救済論』

著者：牧田吉和 販売価格 4,000 円

神学は救済の意味を個人的・教会的枠内で問う傾向を強めてきた。本書は両者の枠を踏まえつつ、神の国の視点から救済の包括的な意味を問う。（著者より）



リフォームドパンフレット9 『愛の業（ディアコニア）に生きる教会』

著者：杉山昌樹、吉田実、西牧夫 販売価格 1,000 円

「阪神淡路大震災（1995年）」、「東日本大震災（2011年）」、そして「熊本地震（2016年）」の被災の現実に直面する中で、教会は「愛の業（ディアコニア）」に生きることへと、一步一步導かれてきました。私たちはそこで、「愛の業」が「伝道」とあいまって、キリストの体である教会を形成する大切な側面を持っていることを学び始めています。

スポーツ交流会

関西地区にある神学校どうしの交流の機会として毎年秋にスポーツ交流会が開催されます。各神学校が持ち回りで担当します。昨年度は私たち神戸改革派神学校が担当校でしたので、関西地区の多くの神学校から、80名ほどの神学生たちが改革派神学校に集い、楽しい交流の時を過ごしました。今年度はルーテル神学校が担当校でした。関西聖書学院 (KBI)、生駒聖書学院、関西聖書神学校 (塩屋)、大阪聖書学院、神戸改革派神学校、ルーテル神学校の6校から80名以上の神学生が集いました。改革派神学校からは12名が参加しました。

今年は開催日が10月31日 (月) の宗教改革記念日でしたので、大勢の神学生がルーテル神学校に集い、共に宗教改革記念礼拝を捧げる恵みを与えられたことも意義深いものでした。ルーテルの先生、神学生の皆さんが、特別にリタージカルな礼拝を備えてくださり、司式者と会衆とが呼応しながら、一つの民となって主に礼拝を捧げるように導いてくださいました。とても新鮮で祝福の時でした。

午後は、8つのチームに分かれて食事の交わりがありました。互いの神学校生活やビジョンについて語り合うひと時です。毎年このような機会がありますので、知り合いも年々増えていきます。互いの近況を話したり、進路を聞き合ったりします。同じ御国に仕えようとする者たちが集い、教団教派を超えた語り合いができる貴重な機会だと思っています。

昼食後は、王子スポーツセンターの体育館に移動してソフトバレーボールをしました。食事の交わりをもったチームで、今度はトーナメントを戦います。上は60代、下は10代の男女が一緒のチームに入り、互いにハイタッチしたり、「ドンマイ」と声を掛け合ったりしながら戦う姿は、なかなか見られる光景ではありません。ここに集った者たちが、やがて御国を建て上げるために協力し合えることを、心から祈り願います。

3年生 小橋口貴人



日本伝道会議報告

去る9月27日～9月30日、神戸にて開催された「第6回日本伝道会議（JCE6）」（以下 JCE）に神学生全員が運営ボランティアとして参加致しました。

JCE は、「聖書信仰と教会の共同性にもとづいて、教会・教団・宣教団体の宣教協力のためにさらに優れた態勢と環境を整え、また私たちの互いの交わりとネットワークをより活きたものとする事によって、実り豊かな福音宣教の働きを行うことを目指す」（参加者のしおり・基本概念より抜粋）という開催理念を掲げて行われている超教派の会議であり、述べ2,100人を超える参加者が集いました。

今回の JCE は「3.11から5年、1.17から20年、戦後70年、日本プロテスタント宣教170年、宗教改革から500年の時を迎えようとしている今、聖書信仰に根ざす私たちは、福音の素晴らしさを見直し、時代と世界の文脈にある自らの姿を見直し、これからの可能性を見直しましょう」として、「再生への Re-VISION ～福音・世界・可能性～」というテーマのもとに行われました。

福音主義教会の宣教の理念と実践の基準を示す「ケープタウン決意表明」の主筆を務めたクリストファー・J・H・ライト先生を主講師として招き、4回の講演が持たれました。また、テーブルごと的小グループによるディスカッション、祈りの場としての「コイノニア」や「分科会」、世代ごとの昼食会など、豊かに整えられたプログラムが組まれていました。

私たちは奉仕をしながらの参加でありましたが、多くのプログラムに参加することが許され多くの交わりが与えられました。また、神戸改革派神学校を含めて8つの神学校、約120名の神学生と共に奉仕をする機会でもありました。

私たち神学生全員が、JCE という大規模な超教派の集会の場に参加が許された、という神様の不思議な導きに感謝しております。

「教団・教派・宣教団体を超えた宣教協力とは何なのか」、そのことを深く思い巡らせる時となりました。

3年生 大宮季三



2017年 神学校主要行事予定

第2学期

- 1月 5日 (木) ● 一斉開講準備
- 6日 (金) ● 第2学期開講講演 (講師 望月信講師)
- 10日 (火) ● 入学願書締め切り
- 2月 3日 (金) ● 全校祈祷日 (講師 西堀則男先生)
- 14日 (火) ● 入学試験
- 3月 3日 (金) ● 第2学期最終講義
- 7日 (火) - 10日 (金) ● リーディング・ピリオド (含補講)
- 14日 (火) - 17日 (金) ● 学期末試験

第3学期

- 4月 6日 (木) ● 一斉開講準備
- 7日 (金) ● 第68回入学式、第3学期開講講演会 (講師 岩崎謙講師)
- 5月13日 / 20日 / 27日 / 6月3日 ● 信徒神学講座
(いずれも土曜日) テーマ「宗教改革500年」、講師 吉田教授、望月講師
- 5月18日 (木) - 19日 (金) ● 神学校リトリート
- 5月30日 (火) ● 日韓宣教研究所セミナー
- 6月 9日 (金) ● 第3学期最終講義
- 13日 (火) - 16日 (金) ● リーディング・ピリオド (含補講)
- 20日 (火) - 23日 (金) ● 学期末試験
- 23日 (金) ● 夏期伝道派遣式
- 27日 (火) ● 第65回卒業式

夏 期

- 6月28日 (水) - 7月 5日 (水) ● ギリシア語文法集中講義 (予科生)
- 7月 1日 (土) - 8月31日 (木) ● 夏期伝道 (1、2年生)
- 7月 7日 (金) - 8日 (土) ● 第41回夏期信徒講座
- 11日 (火) - 28日 (金) ● ヘブライ語文法集中講義 (予科生)
- 8月 8日 (火) - 9月1日 (金) ● ヘブライ語文法集中講義 (予科生)

第1学期

- 9月 4日 (月) ● 一斉開講準備
- 5日 (火) ● 第1学期開講講演会 (講師 小峯明講師)
- 9月23日 / 30日 / 10月7日 / 14日 ● 信徒神学講座、
(いずれも土曜日) テーマ「説教」、講師 岩崎講師、橋谷講師
- 10月17日 (火) - 19日 (木) ● 第72回定期大会
- 11月17日 (金) ● 第20回神戸改革派・神戸ルーテル神学校合同神学シンポジウム
- 12月 1日 (金) ● 第1学期最終講義
- 12月 5日 (火) - 8日 (金) ● リーディング・ピリオド (含補講)
- 12日 (火) - 15日 (金) ● 学期末試験
- 15日 (金) ● クリスマス礼拝・祝会

発行

2016年12月18日発行 / 発行所: 神戸改革派神学校 / 〒651-1306 神戸市北区菖蒲が丘3丁目1-3
TEL (078)952-2266 / FAX (078)952-2165 / 振替 01140-5-12672 / e-mail : rcj-kobe2266@nifty.com